

令和6年度第1回利根町地域公共交通活性化協議会 議事要約

【日時】令和6年7月10日（金）10時00分～12時00分

【場所】利根町役場 行政棟5階 5-A会議室

＜配布資料＞

- ・会議次第
- ・委員名簿
- ・資料1 利根町地域公共交通計画（骨子案）
- ・資料2 住民ワークショップの開催について

【出席者】板谷会長、海老澤副会長、伊藤委員、川上委員、塚田委員、小針委員、村野委員、小菅委員、鹿内委員（代理出席 長谷川様）、鶴町委員、澤畠委員、赤根委員、海老原委員、新井委員、花嶋委員、服部委員、勝村委員

【欠席者】小堀委員、早川委員

【事務局】政策企画課：布袋課長、渡辺課長補佐、生井係長、五十嵐係長、清水政策支援員

【コンサルタント】株式会社ケー・シー・エス：城平氏、五十嵐氏

1. 開会（事務局 司会）

2. 会長あいさつ

3. 議事

協議事項（1） 利根町地域公共交通計画（骨子案）について

※資料に基づき説明【資料1】

会長

それでは質疑応答の時間としたいと思います。協議事項カッコ1の内容に関して、ご意見やご質問がございましたらご自由にご発言いただきたいと思います。

委員

57 ページの施策 1-②「福ちゃん号の運行効率化」が重点事業について、福ちゃん号の本来の目的は保健福祉センターに行くために無料で町内を巡回することでした。現在はこの目的とは違う形で運行していますが、本来の目的の福祉バスとしての福ちゃん号を発展的に効率化していくという方向で今回は重点事業として挙げているのでしょうか。今後も福祉バスは無料であることが想定されるが、そのような方向で検討しているのでしょうか。

次に、58 ページの施策 4-⑩～⑫「交通マップのチラシ・乗り方教室」について、関係する計画目標で高齢者が間接的関係となっているが、直接的関係でもよいのではないかと感じました。

今回説明はありませんでしたが、1 ページ「計画の位置付け」に「利根町地域公共交通計画」と連携して「利根町地域福祉計画」が関連計画に入っていますが、福祉課の方では「利根町地域福祉計画」の改定を令和6,7 年度の2 か年で進めています。現在、「利根町地域福祉計画」の中には公共交通や高齢者との連携は、特に記載されていませんが、こちらが出来たときにはどのような形で盛り込んでいけたら良いでしょうか。

コンサル

1 点目の福ちゃん号の件に関しましては、当初は保健福祉センターに接続することを目的として運行を開始しましたが、13-14 ページに利用状況を示しているとおり、利用実態としては必ずしもそうでないような利用もあります。そのため、このままの運行方法で良いのか、保健福祉センターに接続し続けるかどうかも含めて、町民の方の利便性が向上していく形で検討していく必要があるのではないかということで、福ちゃん号の運行効率化の施策を設けています。今後も無料で続けていくかは、町の意向もある為、現時点では未定であります。

2 点目の計画目標については、ご指摘のとおり修正させていただきます。

3 点目の福祉計画の関係性に関しては、福ちゃん号や公共交通がどこまでをサポートするのか、どこからどこまでが福祉分野かというのは調整しながら今後も詰めていきたいと思います。今年度お話しさせていただいた内容を踏まえ、公共交通分野と福祉分野のそれぞれがどのようにするのかを記載するイメージであります。

会長

福祉計画の中で、交通にはあまり触れないのか、それとも現状で既にサービスがあり引き続き支援していく等の内容があるのか、計画に記載するのかその辺りを教えていただきたいのですが、いかがですか。

委員

現在、町の福祉部門では、「社会福祉協議会」や「福祉有償運送」といった送迎サービスがあります。障がい者手帳をお持ちの方に関しては、地域福祉計画の中で行っているが、今のところは計画の中に明文化はしておりません。

会長

福祉分野の交通サービスを地域公共交通計画に含めない場合も多いが、今後は、担い手の問題が出てくる可能性があります。そのような状況で、地域公共交通計画内に福祉分野の交通サービスが触れられていないことには、少し問題意識があるところです。

委員

実際に福ちゃん号を利用していると、コミュニケーションセンターを利用された方が乗車し、そのまま買い物に行かれる高齢者が多いと感じます。

福ちゃん号の利用者に対するアンケート調査の結果では、福ちゃん号に望む運賃について「100円」の回答が1番多かったと思いますが、中には200円出しても良いという意見もありました。定住人口を増やすという観点では、公共交通の充実が重要であるため、利用者負担を増やしても維持した方が良いのではないでどうか。

会長

運賃等に関しては、まだ具体的な話に踏み込めていないため、ご意見を踏まえて、事務局案を10月頃の協議会でお諮りできればと思います。

福ちゃん号に関する個人の意見としましては、もう少し利用を増やさないといけないと感じています。これまでにも運行ルートや台数を見直していますが、時間とともにニーズや地域の環境も変わるために、計画策定を機に福ちゃん号の見直しを行うことには賛成です。

委員

52ページの計画目標②「路線バスの運行本数と路線バスの利用者数の算出方法」に関して、路線バスの年間運行便数はすぐに集計し、提出できますが、バスは前乗り前払いで、ICカードは未導入となっています。そのため、定期券の利用者数はカウントできますが、現金利用者の年間でのカウントは、会社単独で行うことは難しい状況です。現在は、旅客収入を基に利用者数を推計しておりますが、定期券は前払い制、回数券も11枚綴りのため、1日あたりの利用者数は出ておりません。月単位では集計しておりますが、路線ごとでは集計していないのが現状となっています。

会長

利用者数推計値の算出式を定めて、その算出式を基に評価するようにできると良いと思います。数値の精度はともかくとして、現況値・目標値が算出できるため、そのような方針で評価してはどうでしょうか。

委員

運賃、回数券、定期券等は、弊社で把握しているため、概算になるが、算出は可能です。

会長

詳細な数値を把握できるよう IC カードを導入したいということが本音ではありますが、すぐできる状態ではないため、導入されるまでは、先の方法でやっていただきたいと思います。詳細に関しては、今後調整していきたいと思います。

委員

計画目標の達成に向けた施策および事業ですが、前にアンケートを取ったところ、福ちゃん号利用者に関しては「ほとんど自家用車を持っていない」が 76.7%を占めていました。そしてこちらの施策を見ると、福ちゃん号の運行日数を増加させると書いてあるが、アンケート結果を反映してそのようにしたのでしょうか。また、13-14 ページのグラフは、年間人數と 1 日あたりの人数どちらなのでしょうか。

他の自治体では、新しい公共交通が流行っているようで、高萩市などのデマンドバスも体験しましたが、利用者の方は近くまで予約できるということで大変ありがたいと若い人も話していました。東文間の公共交通が不十分だという意見が書かれているが、その人たちは自家用車で移動しているため、公共交通の必要性があるのでしょうか。また、AI デマンドシステム導入というのはどれくらいの予算が必要なのか教えてください。

コンサル

13-14 ページに関しては、年間の数字であります。

東文間の公共交通に関して、多くの方が自家用車で移動されているという事実があると思いますが、自家用車がないと移動できないという方もいらっしゃいますので、そういった方々を移動できるようにしたいという思いがあります。また、現在のところ需要はないものの、そのようなサービスがあることで、これまで自家用車だけで移動していた方が、たまにそれらのサービスで移動するといった新しい需要も見込んでいきながら考えていきたいと思っています。

AI デマンドの費用に関しては、導入するエリアや車両の台数等によって、大きく値段が変わってくるため、具体化した段階で費用対効果を踏まえ考えていきたいと思います。

委員

今の質問に関して、茨城県全域で行っているモビリティや AI システムの費用等は概算という意味で参考にお話しさせていただけたらと思いますが、まず、モビリティサービスの自動運転等は、低速で運転になるため、現状のデマンドタクシーと同様な形で動けるかという

とそこまで技術としては発展していないと思います。通常の自動運転と俗にいわれるものまでにはもう少し時間がかかるのではないかと思います。

AI デマンドシステムに関しては、色々な自治体で始まっています。ある程度パッケージ化された形で市販されているようなものになっておりまして、見る限りでは 500 万円から 1,000 万円かかるところもありますが、一方でもっと安いシステム事業者も見られています。

基本的にシステムの保守料金はかかりますが人件費等々はかかるないため、長期的に見た場合には人件費がかかるないという部分では、メリットがあるかと思います。先程の金額が満額かどうかというと、国や県の補助金を活用していくとそこまで費用がかかるないところもあるため、ぜひ導入していただくような計画に取り組んでいただけたらと思います。

事務局

AI システム導入に関して、国の方でデジタル田園都市国家構想交付金の補助率が 2 分の 1、また共創 MaaS プロジェクトも活用できることを確認しております。導入にあたって、実際にどれくらいかかるかはこれから検討していく中で、分かっていくといいますが、財政の支援も受けられるため、前向きな検討をしていきたいと考えております。

会長

AI システム導入に費用をかけるのであれば、満足度が高く、多くの方に来ていただけるようにしないといけないため、思い切った先行投資となります。龍ヶ崎市で実証実験をした際には、アプリだけでは予約が不便ということで、電話予約を取り入れており、比較的評価が高かったので、このような要件定義も議論が必要になるかと思われます。

また、全国的にも大体 8~9 割の方が車で移動しているという状況でして、車で移動されている方は基本的には困らないかと思いますが、使えない方が一定数おり、高齢者が話題に上がりますが実は若年層が問題であると考えております。また、免許を持っていて車がない方も実はかなりおり、こういう方々にもなるべく健康かつ快適な生活を送っていただけるようするために、また、外から来訪される方々のための公共交通というところもあるため、少しご理解いただけとありがたいと思います。

委員

事業⑩⑪⑫については、並列で記載されていますが、事業⑩の総合交通マップ作成が最優先課題ではないですか。

コンサル

自家用車を利用している方に対して、総合交通マップや総合時刻表を配布しても恐らく目を通していないだけないと考えています。そのため、事業⑩⑪⑫を並行して進めていく必要があると考えています。

委員

利根町ニュースや大利根交通の路線バス一覧表等、既に作成されているものがあり、それらは誰が見ても分かるようになっているので、ぜひ活用をしていただきたいです。

事務局

町で発行している「利根町公共交通ガイドマップ」について、令和2年度末に初めに作成・配布を行い、令和4年度には改訂版を作成し、設置型として用意しております。取手市と龍ヶ崎市のコミュニティバスのルートマップも置いておりまして、多くの方に手に取っていただいている状況でございます。

このような情報発信は、上手くいっているのではないかと感じしております、今後も実施していきたいと考えております。

委員

58ページの施策3-⑦「交通事業者の運転手確保に向けた支援の検討」にある「就労支援金」を前向きに検討していただきたいです。

委員

福ちゃん号の路線が「内回りコースの右回り、内回りコースの左回り、外回りコースの右回り、外回りコースの左回り」とされており、間違える人が多いと思います。例えば、数字で4種類にする等したほうが良いと思うのですがいかがでしょうか。

また、バスを待っている間の場所に屋根がない、バス停に時刻表がない等、他のサービスも含めて、現在と同じ時刻表でも表示方法を変えることは可能ではないかと思うのですが。

会長

ご指摘いただいた内容について、可能な限り対応できるように調整していきたいと思います。

委員

1点目に、52ページの計画目標②に関して、路線バスの運行本数と利用者数は両方出す必要があるかと思うため、お願いしたいと思います。

2点目に、54ページの「目指す将来図」は非常に重要なポイントだと思う。基幹路線となるバスを、どのように走らせていくかをこの中に表示したうえで、近隣自治体のコミュニティバスをどのように引き込んでいくのかを考え、結節点をどう組んでいくかが非常に重要なと思います。それに、もう少し具体化した形で検討した方がより実効性のあるものになるかと思います。

3点目に、高齢者に関する様々な施策は入っていますが、若い世代に向けた施策がボリューム的に少ないと感じました。今後、公共交通を利用する若年層に対してのアプローチをどう考えていくか、今後の施策の中に盛り込んでいただける必要性があるかと思います。

■事務局

1点目のp.52に関して、記載している評価指標は基本的には設定していきたいと考えております。

2点目の「目指す将来像」に関して、記載しているものはたたき台である。ご意見をいただいた取手市・龍ヶ崎市のコミュニティバスとの結節点に関しては、これから調整をしていくところであり、その中で目指す将来像についても見て分かるような形で示せるようにしていきたいと思っております。

3点目の高齢者施策に対して若者への施策が少ないのでという意見に関しましては、そのとおりだと思います。人口増加・移住定住を考えると若者への施策も重要であると考えているため、今後進めていく中で若者にとって良い施策を改めて検討していきたいと思います。

■委員

p.58施策4-⑫「乗り方教室の開催」に関しては、大利根交通としても全面的に協力したいと思っています。

■協議事項② 住民ワークショップの開催について

■会長

日程が1ヶ月半ほど空くためやや忙しくなりそうだが、周知をしっかりと行っていただきたいと思います。

また、若い人たちの意見を収集することを考えますと、住民ワークショップという形でなくとも、例えば、町内の小中学校でどのように通学しているか、それ以外でどのように利用しているかを、本人あるいは保護者に何らかの形でご意見を伺うことも出来るかもしれません。

■委員

運輸支局の先の取組みで、運転手不足に関して国土交通省・国のほうでは対策として、県内で125校ある高等学校の進学指導の先生の所に訪問し、バス・タクシー・トラックの事業への就職の提案をしています。また、退官される自衛隊の方に対しても運転手に再就職希望されないかとアンケートをしていたりもします。補助金等も含め、そういった取り組みを行っています。

会長

海外の事例を見ておりますと、退役軍人の方々に運転をやっていただくのはかなりあるようで、日本でも既に活動いただいているということで大変ありがとうございます。

また、言語の問題が解決できれば外国人の運転手の方々に来ていただくことも 1 つの方法かと思います。

4. 閉会